

Q 集団の中に入れないのでが・・・

しげき君は、友だちの輪の中に入って一緒に活動することが苦手です。休み時間は好きなアニメのキャラクターを描いていることが多く、自分から話しかけて、友だちの輪の中に入っていくことはほとんどありません。

そこで、先生はアセスメント（子どもの様子をじっくりと見て、どんなことがこのつますきに関連しているかを考えること）をしました。

担任の先生は、授業中のグループ活動を見ていて、しげき君がメンバーのやることを見みながら行動したり、一つ一つ指示されないと動けなかったりすることに気づきました。



ここで行われたアセスメントのポイント！

- 子どもの行動を観察することで、活動の手がかりとなっていることからや行動を引き起こす要因について検討する

推測できるつますきの要因

- あいまいな状況だと何をすればよいのか分からない
- 次に行くことが何か、どこまでできれば終了か等一連の活動の見通しがもてない
- 分からないときに聞くことができない。もしくは聞く方法が分からない



指導編は以下に

アセスメントに基づいて、担任の先生は、次のような指導を行ってみました

- A グループの編成は、しげき君の特徴を理解している子どもを入れる
- B 活動するテーマや手順をプリントに書いて示す
- C グループ内で役割分担を行い、役割を明確にした後にグループでの活動を行うようにする
- D 分からないことや聞きたいことがあったら、手を挙げるようにする

担任の先生が行った指導の意味

- Aのように高機能自閉症等のある子どもの特徴を理解している子どもがグループに入ることによって、ほかの子どもとの橋渡しの役目を果たすことが期待できます。ただし、負担にならないように配慮することが必要です。
- Bのように活動の手順をプリントにして確認できるようにすることで、いま行っている活動や次の活動が何かを理解し、見通しをもって行動することが可能となります。
- Cのように役割分担を明確にすることにより、自分が何をすればよいのかを理解し行動することができます。
- Dのように疑問が生じたときにはどのように振る舞えばよいのかという約束があると、安心して活動に参加できたり、周囲の必要以上の支援を減らしたりすることができます。